

愛媛県知事 加戸 守行 様

2010年11月4日

日本共産党四国県会議員団

佐々木泉、樫昭二、白川容子、山田豊、古田美知代  
扶川敦、田頭文吾郎、塚地佐智、米田稔、中根佐知  
谷本敏明（緑心会）

日本共産党愛媛県委員会	委員長	林 紀子
日本共産党香川県委員会	委員長	松原昭夫
日本共産党徳島県委員会	委員長	上村秀明
日本共産党高知県委員会	委員長	佐竹峰雄
日本共産党国会議員団四国ブロック所長		笹岡 優

### 一層深刻になっているシカ・鳥獣被害への抜本的な対策を求める提案

昨年、深刻化するシカ・鳥獣被害に対する抜本的な対策の必要性について四国4県に申し入れ、①四国4県が、危機に瀕する現状認識と情報を共有し、四県で一体的な対策が推進できるシステムの早急な確立。②四県のプールによる「振興・支援基金」など鳥獣害予防支援策を市町村対応から県主導の対策にし、相互協力が可能な諸制度の創設。③GPS（全地球測位）位置情報システムなどにより、シカ、イノシシ、サルなどの生態を正確につかみ効果的な個体数管理と共生をはかっていく施策の実施を求める提案をしてきました。

そしてこの提案後、四国4県の日本共産党県議団を中心に、調査、研究等の情報を交流するとともに、協議をかさね、9月には京都府、兵庫県に視察、研修を行ってきました。

この調査、研究等の一定の到達点を踏まえて、一層深刻化するシカ・鳥獣被害対策に、より効果的に取り組むための提案を行いますので今後の施策に活かしてください。

#### 記

- ①自然の生態系を破壊し、再生不能な被害をもたらすニホンジカの特徴を正確に把握する。そのためには、兵庫県森林動物研究センターなど科学的知見を進める関係機関との連携、強化を図り、効果的な対策を講じること。  
特に、必要な予算措置をおこない、大量捕獲技術の開発に積極的に取り組むこと。

②被害の深刻さから鑑み、抜本的な対策を国の責任として求めること。そのためには、各省のタテ割りの壁を取り除き、横断的に対応できる体制を、法（時限法）整備も合わせてつくらせること。

また、シカの異常繁殖が国立、国定公園指定地域や国有林などに集中している点や林野政策による拡大造林事業との関連も指摘されており、その因果関係を調査、研究すること。

③「四国地域野生鳥獣対策ネットワーク」が発足し、大きな役割を果たしている。四国4県で進める広域連携事業を、予算措置も含めて積極的に後押しさせるよう国に要望すること。

特に、来年度に計画されている農水省の鳥獣被害緊急総合対策の「県境を越えた広域的な取組に対する支援」を四国4県の広域連携事業に活かせるように国に働きかけること。

④森林動物との共生には、その生態や特性など正確な把握は不可欠で、科学的な知見に基づく対応が必要です。四国4県で「研究センター」を設置し、専門の研究と調査、人材の育成、野生動物への科学的、計画的な保全と管理を推進する拠点施設の役割を担うこと。

⑤県として、森林の再生に向けた具体的な施策を明確に示すこと。

以上